

平成 27 年度特別選抜（推薦入学）入学者選抜試験問題
小論文（出題意図）
医学部看護学科

問題 1

著者は、難解な外国語を繰り返し訳したり、難解な書物を繰り返し読んだり、ノートを取ったりしているうちに、ある時ふと意味がわかるようになることを例に挙げて、「身体を媒介させる」効果について述べている。「身体を媒介させる」ことで、同一の情報が繰り返し入力されると、人間の脳はそれを理解できるように再組織化され、身体を媒介させればさせるほど再組織化が加速され、理解が進む。人間は、身体が同期する経験をとおして、ものごとを腑に落ちる形で理解し、自分の本当の知恵にしていくことができる。未知の思想や感覚に接近する方法は、もどかしさの領域を通過するまで身体を同期させる以外にないと論じている。

問 1：上記のような著者の主張についての文脈の読解能力と、それを限られた文字数で適切にまとめる文章表現能力を問う。

問 2：新しいことを学んでいく際の態度についての著者の主張を、自己の身近な状況に置き換えて考えることのできる想像力と、自己の考えを具体的に・論理的に記述する論理構成能力および文章表現能力を問う。

問題 2

問 1：図 1、図 2、図 3 から、日本の子どもの貧困率は 15%程度で、先進諸国の中で貧困率の高いグループに属しており、ギリシャやスペインなどの経済的危機に貧している国の貧困率と肩を並べていること、貧困率 15%は、貧困率の低い北欧諸国の 2~3 倍の高さであること、日本とポルトガルを除く先進国では、再分配によって子供の貧困率は大幅に低下しているが、日本では、再分配後の貧困率がさらに上昇していること、子供のいる世帯の 65%程度が、生活が苦しいと感じており、この割合は、高齢者世帯よりも高いこと等の事実と、これらのデータから、我が国の子供の大半 15%は、貧困のために、豊かな成長や学習の機会から遠ざけられている可能性があり、このような状況が放置されれば、貧困の再生産が起きる可能性も否定できないことについて読み取る読解力、および、読解した内容を限られた文字数でまとめる文章表現能力を問う。

問 2：問 1 を踏まえて、日本の子どもの貧困率が高い背景には、子育てや教育に係る経費が高く、生活を圧迫している実態があるものと推測されること、再分配の仕組みが十分に整備されていないために、子供のいる世帯の生活は苦しく、子どもの貧困に拍車をかけている可能性が否定できないこと、北欧のように、教育にかかる経費を保証する仕組みを作らなければ、貧困の再生産が起きると懸念されること等を推論する力、および、推論した内容を限られた文字数でまとめる文章表現能力を問う。